

## 個別注記表

### 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
  - (1) 子会社株式 移動平均法による原価法
  - (2) その他有価証券
    - ① 市場価格のない株式等以外のもの  
時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
    - ② 市場価格のない株式等  
移動平均法による原価法
  - (3) デリバティブ 時価法
2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
通常の販売目的で保有する棚卸資産  
商品 移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）
3. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産（リース資産を除く）  
定率法（ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。）  
なお、主な耐用年数は建物8～47年、構築物10～20年、車両運搬具7年、工具器具備品5～20年であります。
  - (2) 無形固定資産（リース資産を除く）  
定額法  
なお、自社利用のソフトウェアについては社内における利用可能期間（5年）に基づいております。
  - (3) リース資産  
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価格を零とする定額法
4. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 賞与引当金  
従業員への賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。
  - (3) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務及び年金資産に基づき、必要と認められる額を計上しております。退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、直近の年金財政計算上の数理債務を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。
  - (4) 役員退職慰労引当金  
役員への退職慰労金の支給に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。
5. 収益及び費用の計上基準  
商品の販売に係る収益は、主に卸売による販売であり、顧客との販売契約に基づいて商品を引き渡す履行義務を負っております。  
当該履行義務が充足されるのは、顧客が約束した財又はサービスの支配を獲得した時点と判断し、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。ただし、商品の販売において、出荷時から当該商品の支配が顧客に移転するまでの期間が通常の期間である場合には、出荷時に収益を認識しております。  
当社が代理人として商品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識しております。
6. 消費税等の会計処理  
消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しております。
7. 外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算基準  
外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
8. ヘッジ会計の処理  
振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっております。